第4回串間市入札制度等検討委員会について

1. 会議日時 令和6年4月23日（火）午前10時00分～午後0時20分
2. 会議場所 宮崎県自治会館 2階 中会議室
（住所：宮崎市宮田町1番8号）
3. 出席者 **【委員長】** 中澤隆雄委員長（宮崎大学名誉教授）
【委員】 落合雅子委員（税理士）
川添正浩委員（弁護士）
木下博義委員（公認会計士）
【串間市】 職員倫理部会長代理（総務課長補佐）
入札制度検証部会長代理（財務課長補佐）
総合政策課長 ほか関係職員
4. 会次第 (1) 開 会
(2) 委員長あいさつ
(3) 議 事
①市の取組状況等について
②提言内容の整理について
(4) 閉 会
5. 会議資料 別添のとおり
6. 議事概要 別添のとおり

第4回串間市入札制度等検討委員会 議事概要

○市の取組状況等について職員倫理部会から説明。(内容・意見等は非公表とします。)

○提言内容について、項目ごとに各委員から留意事項等の取りまとめ。

【内は各委員からの意見等】

(1) 入札・契約制度

①入札の透明性の確保について

ア) 発注基準の見直し

- 客観的に公平公正と受け取れるよう、工事経歴、受注回数など、数値化する必要があるのでは。
- 県や国では、防災協定の締結状況を評価しているが、そのようなことも加味できないか。

イ) 第三者によるチェック体制の構築

- 入札監視委員会は、事後的なチェックだけではなく、指名審査会に入札監視委員会の構成員が参加するなど、事前チェックを行う必要もあるのでは。
- 入札監視委員会において、必要がある場合には市長に建議できる規定を盛り込んではどうか。

ウ) 予定価格の公表方法の検証

- 工事目的物の品質確保を図るため、工事成績などを評価する仕組みづくりが必要ではないか。
- 入札契約監視委員会が設置されるのであれば、委員会に意見を求め、検討してはどうか。

②入札・契約事務の執行体制について

ア) 指名業者選定案の文書管理の徹底

- 12月以降、指名業者選定案は、決裁を受けたうえで公文書として整理しているとのことであるが、引き続き、公文書として管理を行うこと。

イ) 審査会会長への事前レクチャーの見直し

- 現在、事前レクチャーを複数の職員で対応しており、会議進行要領のみの説明に改めたとのことであるが、引き続き、そのような対応を徹底すること。

ウ) 入札・契約事務の体制強化

- 人員を増やして多少の強化をされているが、業務量は増えるものと考えられるので、事務負担の軽減を図っていく必要がある。
- 不当な要求があった場合など、悪いことは悪いと意見が言え、それが保護されなければならない。
- 最終的には職員倫理をいかに徹底していくかが重要。

③入札制度について

ア) 一般競争入札を含めた入札制度の検討

- 特定の工事について、条件を付けて行うなど、市の実情に応じた条件整理が必要ではないか。
- 電子入札の導入、施工実績や地域貢献などの評価を加味した入札方法など検討する必要があるのでは。

④入札方法について

ア) 電子入札の導入

- 少人数の業者など、電子入札への即対応が難しいことから、マニュアル整備や事業者向け説明会の実施のほか、紙入札と電子入札を併用するなど、対応困難な事業者への対策をしっかりと行う必要がある。
- 導入に当たっては、相当の準備期間が必要。

(2) 職員倫理

①職員の意識改革について

ア) 職員倫理の拠り所となる規程等の整備

- 職員が日常的に目に触れるよう工夫が必要。
- パワハラ、セクハラ、不当要求などに対する相談窓口としてヘルプデスクを設置しているが、その存在を職員に理解してもらう必要がある。

イ) 職員研修の充実

- 研修を受講しやすくするよう、複数回実施するなど工夫が必要。
- 市長自らが、職員に対して受講意欲を喚起させることが重要。

②コンプライアンスリスク管理体制について

ア) 不当要求行為等への対応のマニュアル化

- 不当要求などに対応するためのマニュアルは必要。
- 職員に対する不当な圧力、働きかけなどについて、しっかりと記録を残し、共有する仕組みづくりが必要

イ) コンプライアンス推進の体制強化

- 公務員倫理に関する研修の機会は確保されているが、いかに実行あるものにするか、いかに体制を強化していくかが重要。

○検討委員会は、次回（第5回）を最終回とし、5月23日（木）10時30分から串間市で開催予定。